

## 5987 オーネックス

大屋 和雄 (オオヤ カズオ)

株式会社オーネックス社長

### オーネックステックセンターを黒字化し事業基盤の確立を目指す

#### ◆2016年6月期の業績状況

当期は売上高 51 億 51 百万円(前期比 60 百万円減)、売上総利益 11 億 26 百万円(同 2 億 47 百万円減)、営業利益マイナス 32 百万円(同 3 億 45 百万円減)、経常利益マイナス 27 百万円(同 3 億 51 百万円減)、当期純利益マイナス 85 百万円(同 2 億 76 百万円減)となった。中国経済の不振とエネルギー価格低迷により、建機関連が低調で売上高は減少した。営業利益のマイナスは、新設子会社オーネックステックセンター(OTC)の赤字計上と退職給付に係る引当金の増加による。

営業利益の要因分析は、自動車のセクターが好調だったものの、建機・産業工作機械、その他がマイナスとなり売上が伸びなかった。経費は、マイナス金利で退職給付費用を積み重ねなければならなくなり、これを計上した。

連結貸借対照表は、現金および預金が OTC への貸付金により減少。固定資産は、主に OTC の設備投資により増加した。借入金の増加は、OTC の工場・機械設備に対応するための増加である。さらに退職給付に係る引当金が 2 億 45 百万円増加した。

セグメント別業績は、金属熱処理加工(オーネックス、OTC)の売上高が 46 億 4 百万円(前期比 98.3%)、営業利益がマイナス 87 百万円(同マイナス 157.6%)だった。運送(オーネックスライン)は、顧客の大手道路会社の談合問題等で受注ができなかったことから低迷し、売上高が 5 億 47 百万円(同 82.1%)、営業利益が 23 百万円(同 42.1%)だった。

業種別シェアについては、特に建設機械が中国の不況の影響で予想外に低迷した。熱処理加工種別シェアは、金属処理の中で当社が行う焼き入れ・焼き戻しと浸炭熱処理をあわせて、売上の約 75%を占める。製品の最終工程に関与した熱処理になる。

#### ◆2017年6月期業績予想

連結では売上高 53 億 90 百万円、経常利益 30 百万円、当期純利益マイナス 60 百万円。個別では売上高 45 億 32 百万円、経常利益 2 億 19 百万円、当期純利益利益 1 億 31 百万円の予想である。利益が出ているのに連結がマイナスになるのは、オーネックス本体では利益が出ており、半分近くが税金の支払いとなるためである。

売上高・設備投資・減価償却費の推移を見ると、関東地方の需要が減少傾向にあることを背景に三重県に OTC を設立したが、その投資と減価償却費が増加している。今期はピット炉 1 台を増設予定。さらに、全自動のオールケース炉を 4 台追加導入するスペースを有している。

#### ◆今後の展望

熱処理事業を取り巻く環境は、マイナス要素として、まず中国を初め東南アジア諸国の景気減速と原油価格低下によるエネルギー関連投資の低迷がある。建設機械は掘削等に建機が使用されるが、原油価格の低下によりセクターが低迷している。また、円高の進行により顧客企業の輸出が伸びず、海外展開が進んでいる。プラス要因

としては、自動車・同部品業界の再編成がある。アイシン AW がトランスミッションを 2020 年までに現状 700 万台から 1,000 万台にする増産計画を発表している。アイシン AW は材料と熱処理を国内企業に外注する方針で、エネルギーコスト低下による建機販売の低迷はマイナス要因となるが、当社の熱処理工場は電気・ガスを大量に使用するため、収益性向上につながる。大型歯車、建設機械の国内需要は増加する見込みで、その他東京オリンピックに向けたインフラ整備でさまざまな建機の需要がある。また、シェールガス輸入に伴う LNG 船建造や、リニア新幹線のトンネル工事における掘削工事等の需要が見込まれる。

オーネックスグループの経営戦略については、熱処理市場は基幹工場がある関東地区の市場が沈下し、中部・近畿地区が伸長している。名古屋中心に自動車・航空機のクラスターができつつあり、大阪近辺には大型歯車の熱処理を請け負う企業がある。

成長分野は自動車、ロボット、風力発電、航空機で、オーネックステックセンターの立ち上げにより、航空機産業、ロボット産業が集積する中部地区の基盤を強化する。選択と集中として、昨年度、基幹工場である厚木工場と東松山工場間に高速道路が開通し、時間的距離が 2 時間半から約 50 分に短縮したことから、一体化運営をスタートさせ、人員合理化を実施した。9 月からはさらなる合理化を推進するため、厚木・東松山・長野の 3 工場のマネジメントを統合する形で一体化運営をスタートさせる。人・物・金を飛躍的成長が期待される新会社に投入し、成長を目指す。

航空機の機体部分の熱処理には専門の炉が必要となるため、当社はその分野には参入しない。得意とするのはジェットエンジンやタイヤを上げ下げするギア、ドアを開閉する際のヒンジ、フラップに使用されるボールネジ等で、中部地区には関連企業が集積しており、三重工場に対応している。

#### ◆オーネックステックセンター(OTC)

設立目的の 1 番目は近畿・東海・北陸エリアの新規顧客の開拓である。2 番目は既存顧客の納期短縮・運送コスト削減。3 番目は BCP 対策。亀山は地震が少なく、陸側に位置するため津波の影響もない。現在、当社のコンピューターのバックアップ基地を亀山に移している。そして 4 番目は、日本の産業基盤が集積する 3 大都市圏をフルカバーする事業基盤の確立である。

土地面積は約 6,600 坪、建物が約 1,000 坪で、もう 1 棟工場を建設する余地がある。2017 年 6 月期の売上は 2 億 40 百万円弱を見込んでいる。運送部門は工場内に運送子会社であるオーネックスラインの三重営業所を開設。オーネックスから 4 割、他の企業から 6 割受注している。

隣接してシャープ亀山工場があり、シャープが東名阪高速道路の自動 ETC のインターチェンジをつくったため、名古屋まで 40~50 分、大阪まで 1 時間弱と短時間で行くことができる。近隣にトヨタ自動織機がテストコースを建設中で、関連した部品メーカー等の進出が期待される。交通アクセス網は近々開通予定の道路も多く、名古屋地域のアクセスが格段によくなる。

センターの特徴の 1 つ目は、ピット炉が 2 基あることである。油槽の攪拌方法が 27 通りのパラメーターがあることで、製品に最適な冷却が方法を選択でき、低歪み処理が可能である。

2 つ目はバッチ炉が 4 基あることで、完全自動化のフレームレス設備で段取り、焼き入れ、洗浄、焼き戻しまでコンピューターで一括管理されている。自動化による安定した品質の提供と、効果的な操炉によるリードタイム短縮を実現している。

2016 年 6 月期の業績は、7 カ月間の稼働で売上高 87 百万円。いすゞ自動車トラブルによる特需売上高が約 50 百万円ある。2017 年 6 月期の売上高は 2 億 36 百万円、経常利益についてはマイナスの予想である。ピット炉を 1 基増設し、大型部品の売上増を目指す。現在試作中の製品の量産化移行を加速し、受注の安定化をはかる。さらに、営業活動の強化としてオーネックス取引先の移管を推進し、新規ターゲット先のセールスを強化する。

## ◆ 質 疑 応 答 ◆

### 今期以降、特損等が発生するリスクファクターは何か。

一番のリスクは、新規工場建設により土地・建物、設備費、減価償却が増加し、売上が伸びずに赤字が続くことである。リーマンショックや戦争のような世界的なショックが起きると売上が計画未達となり、減損会計が求められる可能性がある。そうならないように今期の見込みは低めにしており、マイナスを少なくし、全体としてプラスの方向を目指していく。

### 今期は特損を見込んでいるか。

見込んでいない。退職給付引当金についても経営に大きな影響を及ぼすような積み増しは発生しない。

### 現在の受注や引き合いの状況はどうか。

国内の乗用車のセクターが強い。炉を増設するよう要望はあるが、顧客の要望に合わせた仕様に改造できるところは改造し、受注の要望に応じていく方針である。マイナスのセクターは、近畿の建設機械の見通しが立っていない。来年以降の引き合いについては、建設機械のセクターで小型の数量が出る。また、東京オリンピックに向けたインフラ需要やリニアのトンネル掘削等が期待される。

### 国内の熱処理全体の需要はどのぐらいか。

経産省によると、熱処理の外注されるマーケットは 2,600 億円。そのうち、当社の対象となる最終商品のジャンルは半分の 1,200 億円。浸炭焼き入れは 400~600 億円とみている。当社のシェアは約 10%の 40~50 億円である。自動車メーカーは現在、熱処理を内製しているが、設備が老朽化してきており、再投資はせずに外注の方向になると見込まれる。M&A も視野に入れながら対応していきたい。

### 今後の配当、株主還元についての考え方は。

どんな状況でも安定配当を行う方針で、2 円を下回らずに、それ以上の配当ができるように運営していきたい。内部留保や M&A とのバランスを見ながら検討していく。

### OTC の黒字化はいつごろか。売上規模がどれぐらいでブレークイーブンになるのか。

現在 6 台ある設備が 100%動いているわけではない。山口と厚木の取引先をベースに更に新規開拓を行っていく。時期的には現時点では申し上げられないが、確実に増加するとみており、できるだけ早く黒字化にもっていきたい。

(平成 28 年 8 月 26 日・東京)

\* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見ることができます。

<http://www.onex.jp/ir/docs/briefing.php>